

学校教育目標		「かしこく やさしく つよく」生きる子どもの育成			経営理念	「平岩小学校で学んでよかったと思える学校の創造」							
項目	重点	評価計画				自己評価					改善方針		
		中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	達成値		達成度	評価		結果と課題の分析	
						10月	1月				改善方針		
知	「かしこく」	1	主体的に考え、表現する子ども	主體的・対話的で深い学びを創る授業実践の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「個別の課題追究」と「学び合い」を工夫した単元構成 ○社会科・国語科における問いを重視した授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ、振り返りの評価 	B評価以上の児童80%以上	83%	84.6%	105	A	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめ、振り返りの評価と児童アンケートとどちらも目標値を上回っている。特に児童アンケートでは、児童は「個別の課題追究」学び合いのどちらにおいても、学習に進んで取り組んでいるとともに、学び合いにおいては、友だちとの意見交流などを通して、自分の考えが深まっていると感じている児童が多いことがわかる。また、振り返りの評価も目標値を達成しているが、国語科と社会科を比較すると、社会科の達成率が低かった。主体性を伸ばすことに加えて、確かな知識を身に付けるために、個別学習で取り組むワークシートや学習コーナーを工夫したり、一斉授業での発問を吟味したりする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も同様の研究テーマで研修をしていく。その際、教材研究を深く行い、導入・個別の課題追究・学び合いの中で、その単元で必要な知識を身に付けるために、どのような工夫をするか効果的であるかを具体的に考えていく。
				基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○学習ソフト(ミライシード)等を活用した学習内容の定着 ○家庭学習の習慣化(4学年以上の家庭学習の計画と実施) ○平岩ゼミ(学力補充)の実施 ○読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケート(肯定的評価) ・進んで学習している ・一斉授業(「学び合い」)では、新しい発見があったり、自分の考えが深まったりして、学習がよくなる 	80%以上	93%	91.5%	114		<ul style="list-style-type: none"> ○評価指標を達成したクラスは、国語17学級中11学級(65%)、算数は17学級中11学級(65%)であり、全体での達成率は65%であった。単元の途中や最後に、ミライシードや単元末プリントを活用して、その単元の学習内容の定着を図った。また、前期に引き続き、家庭学習の計画を児童が立て、めてをわって宿題に取り組めるように継続して指導した。朝の会が始まる前の時間を活用し、算数の基礎的な問題を繰り返し解くことで、算数の基礎的な学力の定着を図った。その結果、評価指標を達成したクラスが3クラス増えた。今後は、学年でつけていきたい力を相談しながら、国語と算数にバランスよく取り組み、さらなる基礎学力の定着に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会が始まるまでの時間を活用することは、基礎的な学力の定着に効果があった。来年度も継続して取り組むことが有効である。さらに、効果を高めたために、現在の児童の学習状況を分析し、どのような問題を解くことが効果的なのか具体的に考えていく。
徳	「やさしく」	2	人の気持ちが分かる子ども	人に対する言葉遣いを磨く取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生活委員会による「あったか言葉」取組の実施 ○生活委員会・保護者・地域によるあいさつ運動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケート(肯定的評価) ・人の気持ちを考えて、行動(話す)している ・あいさつをしている ○保護者アンケート(肯定的評価) ・学校は、様々な教育活動を通して、人の気持ちを考えて行動できる子どもを育てようとしている ・わが子は友だちや地域の人にあいさつをしている 	80%以上	83%	85.5%	107	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートでは、「人の気持ちを考えての言動」は88.2%、「あいさつをする」95.0%の児童が肯定的な回答をしている。特に「人の気持ちを考えて行動」では、前期よりも5%近くの上昇がみられた。粘り強い各担任の役割のそれに伴う児童の成長が主な要因と考えられる。あいさつについては、毎週火曜の朝の生活委員会による挨拶運動を継続して行っている。自分から大きな声で挨拶をする児童が増えている。 ○保護者アンケートでは、「わが子の人の気持ちを考えた言動」88%で前期より10%以上肯定的な回答が上昇したが、「わが子の友だちや地域の人へのあいさつ」70%で5%減少した。特に挨拶において、児童と保護者の意識に差が顕著になっている。「自分から誰にでも挨拶をする」という点において、全校での一斉指導や各学級での特別活動や学級指導、個別指導等を通して指導してきたが、学校以外の挨拶の状況は改善していないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動で行っている挨拶運動や全校朝会等での一斉指導、各学級での学級指導を継続して行う。その指導内容に「家や地域でも」を強調して付け加え、「どこでも」「誰にでも」挨拶ができる児童の育成を図る。 ・学校においては、教職員が積極的に児童に挨拶し、挨拶を自分から行う風土の醸成を図る。 ・学校生活の中で生じたトラブルを自分事として考えられるよう、継続して学級指導及び個別指導を行う。
				支持的風土のある学級づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○人間関係づくりや相互理解を深めるためSST、構成的グループエンカウンター等の計画的な実施 ○身の回りの整理・整頓の取組(筆箱・机の中・ロッカーはきもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動年間計画に基づきSST、構成的グループエンカウンター等の実施100% 	100%以上	100%	100.0%	100	A	<ul style="list-style-type: none"> ○前期同様、すべての学級において、1回もしくは2回の人間関係づくりや相互理解を深めるためSST、構成的グループエンカウンター等が計画的に実施されている。 ○怒りを中心とした感情のコントロールについて扱った学級が多かった。いじめアンケートや普段の生活の中で「対人関係形成能力」については常に課題として挙げており、特に怒りに対して望ましくない言動が多く見られるため、実態に応じた適切な内容を指導できていると考えられる。具体的に児童の日常生活の場面を例として学級全体で考えた所もあり、感情のコントロールについて理解が深まったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も特別活動年間指導計画を基に、計画的に実施していく。 ・後期のSST等の実施について、各学級で行った内容や成果を文字として見える化した。他学級の成果等について共有できる環境を今後もつくってきたい。 ・各自で作成した資料等をデータとして渡し、必要に応じて活用することができるようにしていく。
体	「たくましく」	3	最後までやりぬく子ども	運動に対する意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○体育科において「体づくり運動」や「基本的な動き」を取り入れた授業づくり ○「平岩マラソン」や「なわとび」(体育朝会等)の期間集中での実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケート(肯定的評価) ・運動(体を動かすこと)が好き ・学校がある日は運動(体を動かすこと)をしている 	80%以上	91%	91%	113	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣アンケート「げんきしらべ」を実施し、児童の実態を調査した。 ○運動に関しては体を動かすことが好きかという問いに対して肯定的な回答は80%であった。また学校がある日は運動をしているとの質問への肯定的な回答をした児童の割合は97%であった。上半期と同様に運動に対する児童の意欲はある程度高いといえる。体育科の学習やロング休憩、放課後の運動場の開放などを通して運動が習慣化している児童が増えているのではないかと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科の学習の中で、運動することの楽しさや、児童個々が感じることも出来るような授業を仕組んでいることが必要である。 ・引き続き、「ロング休憩」や「持久走」など運動を奨励するとともに、さらなる取組の充実を図る。
				基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣を整える(メディアに対する意識の啓発) ○食に対する意識の向上(食育授業の実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「メディア週間(仮称)」の取組を年2回以上実施 ・栄養教諭による食育の授業を全学年で実施 	2回以上	50%	100%	100	A	<ul style="list-style-type: none"> ○後期の「げんきしらべ」から、前期に比べて、後期では「家庭のメディアインターネットのルールがある」と回答した家庭が77.0%→86.0%と増加しており、保護者の意識が高まっていることがうかがえる。一方で、「ルールを守れている」と回答した割合は95.0%→90.0%と減少している。ルールを設ける家庭は増えたものの、実際に守ることが難しい状況が生じていると考えられる。 ○「学校がある日のメディア使用時間の変化」については、全体的にメディア使用時間が長くなる傾向が見られた。特に3時間以上の割合が増加しており、長時間利用の児童も増加していることが懸念される。 ○栄養教諭による食育は、全学年実施した。来年度も継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との取り組みを支援するため、簡単に実践できる方法や声掛けを紹介するなど保護者へのサポートを強化していく。 ・学校全体でメディアとの付き合い方をテーマにした健康教育を継続していく。来年度は年間3回のメディアコントロール週間を計画的に実施して、児童の意識の継続化を図る。
信頼される学校	4	信頼される学校づくり	家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の教育活動における連携や学校だよりなどのお便り、HP等における情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケート(肯定的評価) ・子どもたちの学習や生活の様子を分かりやすく伝えている ・保護者からの連絡や相談に適切に対応している 	85%以上	91%	93.0%	109	A	<ul style="list-style-type: none"> ○下半期保護者アンケート結果によると、「学校は、子どもたちの学習や生活の様子を分かりやすく伝えている。」は94%、「学校は、保護者からの連絡や相談に適切に対応している。」は92%の肯定的な評価を得た。保護者からの連絡や相談について組織的に対応し、より良い解決に向けて取り組んでいる成果と考える。今後は信頼関係を構築し、相談体制を充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信については、引き続きホームページや学校だより、学年通信等で学校教育活動の情報発信を行う。 ・保護者対応も態を逸すことのないように組織的に取り組む。 	
			効率的な業務の推進と子どもと向き合う時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○組織的な報告・連絡・相談体制の充実 ○企画委員会、学年主任会における計画的な提案 ○時間外勤務の縮減を意識し見直しをもった働き方 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員アンケート(肯定的評価) ・互いに学び合い、協力し合っていると感じる教職員 ・児童一人一人と向き合うことができている教職員 	85%以上	94%	91.0%	107		<ul style="list-style-type: none"> ○教職員アンケートの結果によると、「互いに学び合い、協力し合っていると感じる」については85%「児童一人一人と向き合うことができる」については96%の肯定的評価であった。この2項目の平均が91%である。また、「時間外勤務の縮減を意識し見直しをもった働き方」については96%であった。下半期後半からの退校時刻の見直しにより、時間外勤務の縮減を意識することができた成果と言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、効率的な業務推進と子どもと向き合う時間の確保に向けて、実効性の時間外勤務の縮減に向けて取り組む。 	

【自己評価 評価】

- A: 100≦(目標達成)
- B: 80≦(ほぼ達成)<100
- C: 60≦(もう少し)<80
- D: <60

【達成度】

- 達成度/目標値×100
- 例: (達成値90/目標値80)×100=112.5となり
- 評価は A とする。

【学校関係者評価 評価】

- 3: 自己評価は適正である。
- 2: 自己評価は適正でない。
- 1: 分らない。